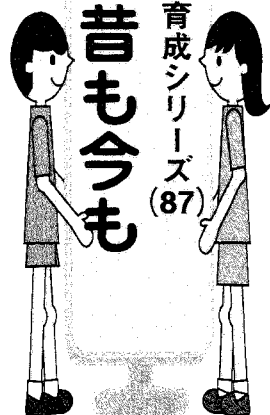


健全育成シリーズ (87)

昔も今も



九月になり、夏休みを終えた子どもたちが集団生活の場に戻り、家庭では寂しさとともに、ほっとしている面もある時期でありましょう。夏休み中の家庭での子ども様子は、どうだったでしょうか。

さて、江戸時代の川柳集、誹風柳多留（はいふうやなぎだる）に「ちとつ母手伝つてどらにする」というものがあります。「母」だけでなく周囲の大人が子ども成長のためには、どのようにしなければならぬか考えさせる川柳です。また、同じく「母親はむす子のうそをたしてやり」というものもあります。現在なら母親だけでなく子どもの周りの大人また、むす子だけでなく娘にもありそうなことかも知れません。いつの時代の親も、わが子がかわいいのは世の常ですが、しかし、自分の子どもだけを見ていて判断をややまっではいけません。昔の人も、たくさんの「どら息子、どら娘」また「うそをついた息子」を見ていて、親のあり方を考えたのでしょうか。

さて、振り返って今の日本の子どもたちの現状はどうでしょう。ある教育関連企業がアンケート

ト調査をしたところ「放置してある自転車をも自分で使っても良い」というような質問に、使っても良いと答える子どもが増えているそうです。また、外の項目でも、諸外国の同年齢の子どもたちと比べると、日本の子どもの規範意識の低下が分かる数値が出てきているそうです。また、大勢で遊んだり、家の手伝いをしたりすることが少なく、いろいろな経験を積むことが以前に比べるとはるかに減っているのも、神経質で怒りやすく、衝動的で自制心に欠け、外の人に対しての思いやりに乏しいといわれています。子どもたちだけでなく、若者の中にも「アダルトチルドレン」（大人でありながら心や物事の考え方、暮らしぶりが、子どもそのもので、未熟な社会的遅滞児）といふべき人が増えているともいわれています。



先程の川柳ではありませんが、幼年期から思春期の時期に失敗させることを恐れるあまり、その子

のためによかれと思いながら親がいろいろと手を出したり、口を出したりすることがよくあります。しかし、本人が責任を持って行う経験が少なく当然、心の成長する機会も減っていき「どら」や「アダルトチルドレン」となる可能性が出てきます。自分がやった方がはるかに楽で面倒がないときでも子どものために経験させることがとても重要になってきます。また、そのときには「よくできたね」と結果を誉めるのではなく、そのようなことに自分から関わっていかうとしている、「意欲」を誉めることが肝心な点です。

先年、よく売れた本に「EQ心の知能指数」という本がありました。人間として生きる基本的な倫理観は、EQという基盤の上に成立し、今の時代に必要なのは自制と共感でありそれを形づくりにつけるのは、幼年期から思春期がもっとも大切であるといっています。

かつてないほどのスピードで、物事が変化していき、価値の変容が見られる時代です。しかし、芭蕉が俳句の中で「不易（ふえき）流行」といったように、人の生き方にも、時代とともに変化することと、永遠に変わらないことがあります。

いろいろな経験させることを通して、素直に「ありがとう」といえる心や「これだけはしてはいけない」という心を育てましょう。

青少年健全育成標語募集

十一月は、全国青少年健全育成強調月間です。都留市でも「青少年健全育成推進大会」が開催されることになっています。

この機会に、市民の皆さんから「標語」を募集します。

応募方法 ハガキまたはハガキ大の用紙に作品一点を記載してください。※一人三点が限度です。

標語の提出は、市民会議事務局（中央公民館内）または教育委員会に、小・中学生は学校にお願いします。

応募締切 10月9日（金）

表彰 成人・高校生・中学生・小学生の四部門に分け、各部門ごとに、優秀一点、佳作二点を十一月の「推進大会」で表彰します。

主催 都留市青少年総合対策本部
都留市教育委員会
青少年育成都留市民会議

全市一斉

親子美化作業実施

「青少年の非行問題に取り組む強調月間」にあたり親子による全市一斉美化作業が市内の育成会を中心に自治会・PTAなど関係団体の協力を得て七月五日（日）に第一回目が実施されました。

なお、この運動は「小さな親切」運動本部提唱の「日本列島クリーン作戦」に参加しています。



玉川育成会の子どもたちによる美化作業

